

「さあ、始めよう！」
「家庭の日」実践

「さあ、始めよう！」と言われても、それぞれの家庭がさまざまな事情を抱え生活していると思います。共働きだったり、仕事は必ずしも土日休みではなかったりすると思います。

また、子どもは成長するにつれ、友達との遊びや部活動などを優先するようになりま。そして、自然と親元から離れていきます。

それでも「家族一緒に過ごしたい」と思うのは、親として当然のこと。ただ、どのように過ごすことが子どもにとって良いことが分からない。そんな思いも、少なからずあるのではないだろうか。

昨年11月14日、中央公民館で「平成21年度青少年健全育成白石市民のつどい」を開催しました。これは、市民と行政が一体となって、子どもたちの健全育成を目指そうと開催したものです。

その中で、4組の家族が「わが家の『家庭の日』」と題した実践発表を行いました。そのうち、2組の家族の取り組みや過ごし方をご紹介します。



▲サッカーが大好きな尋也くん。取材もサッカー少年団の練習中にお邪魔しました（昨年12月20日、大平小体育館にて）

外で遊ぼう！そして、4つの心掛け

大平にお住まいの佐久間尋也くん（大平小・5年）とお父さんの勝彦さん。「外で遊ぼう」と題して、最初に尋也くんが発表しました。

「僕は外で遊ぶのが大好きです。弟や友達とサッカーや野球をしたり、裏山を探検したり、秘密基地を作ったりいろいろ遊びをします。時には、種をまいたばかりの畑に入ったり、服を汚したりして、お母さんやおばあちゃんに叱られます。また、転んでよくけがをします。けれども、友達と遊びを考えた、ものを作ったりすることが大好きです」

続けて勝彦さんが、「子どもたちが外で遊ぶことを大切にしたい。その中で、親として4つのことを心掛けています。それは、①子どもたちの中で、ルールづくりを大切にすること。②子どもたち自身に遊びを考えさせること。③大人は安全に配慮するが、基本的には見守り。④夕食の時に、今日の遊びを話題にすること。この4つです」と話しました。

この4つには、「子どもたち自身に遊びを考えさせること」で、知識や技術の習得、体力の向上につなげよう」という思いが込められています。

そして、「私たちが子どものころとは違い、青少年への犯罪や交通事故、家族構成など家庭環境が変化し、外で遊ぶにも学校や公園などに限られてしまいます。それでも外で遊ぶことは大切と考えます。外で遊んでいる時の子どもたちの顔が、一番イキイキしています」と勝彦さんは続けました。

最後に、「子どもたち自身で考える遊びやルールづくりは、学校の授業ではできないことです。遊びの中で得意不得意を自覚し、良い悪いの判断など、人との接し方を学ぶと思います。時には一人一人のエゴがぶつかるところもあると思います。ただ、それも人との接し方として大切なことだと思います」と結びました。

発表後に感想を伺うと、「何を発表したらいいか最初は困りましたが、いつもやっていることを言うしかないと思いました」と、勝彦さんは笑顔で話してくれました。

子どもだけの世界を持たせることの大切さを発表した佐久間さん。サッカーという親子共通の趣味があることもまた、家族を強く結ぶひとつの材料になっているのかもしれませんが。

家族が一緒に過ごすように

大鷹沢にお住まいの細谷拓海くん（大鷹沢小・6年）とお父さんの成美さん。「家族旅行」と題して、拓海くんが発表しました。

「僕が毎年楽しみにしていること。それは家族みんなで行く旅行です。今年も函館に行きました。僕は電車が大好きで、青函トンネルを見るのが楽しみでした。今年の旅行の思い出は、函館山に登ったら、霧が濃くて景色が見えなかったことです。

この旅行を通して、たくさんのお出でをありがとうございます。両親に感謝しています。これからも家族が仲良く、

家族のきずなを深めていきたいと思います」

次に、「わが家の取り組みと心掛け」と題して、成美さんが発表しました。

「わが家では『家庭の日』だからといって、特別な取り組みはしていません。ただ、家族みんなが心掛けていることがあります。それは、①晩ご飯は家族そろって一緒に食べる。②子どもたちと一緒に地域の活動に参加すること。③家族旅行。この3つです」と話す成美さん。

続けて、「ひとつの食卓を囲んで、家族が会話できる機会を多く作るうと思っています

。学校での生活や子どもたちが今考えていることなどを話し取る、大切な時間です」と、食事の会話の大切さを話しました。

「例えば、市内一斉クリン作戦などに参加した時、資源ごみの多さにビックリして、資源の大切さを親子で感じる貴重な体験となりました。また、旅行の計画は、子どもたちがします。それと同時に、私たち大人も一緒に楽しみながら行っている姿を、子どもたちに見せるように心掛けています」と、家族がそろって行事に参加できるように、工夫している場面も見られました。

発表後、自宅にお邪魔して話を聞くと、「私の仕事は朝早い分、晩ご飯の時間は大切にしていきます。今日あった出来事を必ず話します。また、近所付き合いや地域の活動は、積極的にに行おうと心掛けています」と成美さんは話してくれました。

今回登場いただいた2組の家族からは、本当に仲の良さが伝わってきました。そして、人に話すことはなくても、楽しい家族づくりをしているんだと強く感じました。

親の役割

佐久間さんと細谷さんが発表者になった理由：それは、たまたまPTAの役員をしていたから。最初はそんな理由だったようです。

しかし、発表した皆さんは、「普段の生活をありのままに伝えよう」としてくれました。「そんなこと自分の家でもやっている」、「祖父母と一緒に住んでいるからできること」など、いろいろな感想や意見があると思います。

しかし、家族が普段からきちんと向き合っていることは伝わりませんでした。

実践発表の後、「子どもの成長と親の役割」と題した講演がありました。講師となつた菊池嘉雄さんによれば、「親の役割①子どもを自立させること」。そのために、親は子にルールやマナーなどの社会性を教えると同時に、親子のきずなづくりに努力することが大切だと話しました。

家族の過ごし方の正解は、ひとつではありません。それぞれに合った「家族のかたち」があるはず。まずは家族と一緒に過ごす。そこからスタートです。



▲昨年12月25日、クリスマスの日に自宅にお邪魔したにもかかわらず、快く取材に応じていただきました

【細谷さんご家族】大鷹沢にお住まいの細谷さんご家族は、拓海くんと小学3年生の妹、お父さん、お母さん、おじちゃんの5人家族。取材中も笑顔が絶えない細谷さん一家は、お互いに何でも言い合えるすてきな家族です。



大みそかから元旦にかけて、初もうでやけり初めに訪れた6組の家族に、新年の抱負を伺いました。

今年の家族の願い

大みそかから元旦にかけて、初もうでやけり初めに訪れた6組の家族に、新年の抱負を伺いました。



朝野さんご家族
「健康でみんなげがないように」
(09.12.31 除夜の鐘を鳴らす会)



新田さんご家族
「宿題をちゃんとするように」
(10・1・1 神明社へ初もうで)



相原さんご家族
「勉強を頑張ります」
(10.1.1 親子そろってけり初めに参加)



鈴木さんご家族
「部活に勉強に頑張ります」
(10.1.1 神明社へ初もうで)



井上さんご家族
「健康と家内安全を願います」
(10.1.1 神明社へ初もうで)